

安息日 the sabbath day

※聖書（新共同訳）には、「安息」が163聖句に185回登場する。

創 世 記	2:2 第七の日に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なさった。
創 世 記	2:3 この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第七の日を神は祝福し、聖別された。
出エジプト記	16:23 モーセは彼らに言った。「これは、主が仰せられたことである。明日は休息の日、主の聖なる安息日である。焼くものは焼き、煮るものは煮て、余った分は明日の朝まで蓄えておきなさい。」
出エジプト記	16:25 モーセは言った。「今日はそれを食べなさい。今日は主の安息日である。今日は何も野に見つからないであろう。」
出エジプト記	16:26 あなたたちは六日間集めた。七日目は安息日だから野には何もないであろう。」
出エジプト記	16:29 よくわきまえなさい、主があなたたちに安息日を与えたことを。そのために、六日目には、主はあなたたちに二日分のパンを与えている。七日目にはそれぞれ自分の所にとどまり、その場所から出てはならない。」
出エジプト記	20:8 安息日を心に留め、これを聖別せよ。
出エジプト記	20:10 七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。
出エジプト記	20:11 六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである。
出エジプト記	31:13 あなたは、イスラエルの人々に告げてこう言いなさい。あなたたちは、わたしの安息日を守らねばならない。それは、代々にわたってわたしとあなたたちとの間のしるしであり、わたしがあなたたちを聖別する主であることを知るためのものである。
出エジプト記	31:14 安息日を守りなさい。それは、あなたたちにとって聖なる日である。それを汚す者は必ず死刑に処せられる。だれでもこの日に仕事をする者は、民の中から断たれる。
出エジプト記	31:15 六日の間は仕事をするができるが、七日目は、主の聖なる、最も厳かな安息日である。だれでも安息日に仕事をする者は必ず死刑に処せられる。
出エジプト記	31:16 イスラエルの人々は安息日を守り、それを代々にわたって永遠の契約としなさい。
出エジプト記	33:14 主が、「わたしが自ら同行し、あなたに安息を与えよう」と言われると、
出エジプト記	35:2 六日の間は仕事をするができるが、第七日はあなたたちにとって聖なる日であり、主の最も厳かな安息日である。その日に仕事をする者はすべて死刑に処せられる。
出エジプト記	35:3 安息日には、あなたたちの住まいのどこでも火をたいてはならない。」
レ ビ 記	16:31 これは、あなたたちにとって最も厳かな安息日である。あなたたちは苦行をする。これは不変の定めである。
レ ビ 記	19:3 父と母とを敬いなさい。わたしの安息日を守りなさい。わたしはあなたたちの神、主である。
レ ビ 記	19:30 わたしの安息日を守り、わたしの聖所を敬いなさい。わたしは主である。
レ ビ 記	23:3 六日の間仕事をする。七日目は最も厳かな安息日であり、聖なる集会の日である。あなたたちはいかなる仕事もしてはならない。どこに住もうとも、これは主のための安息日である。
レ ビ 記	23:11 祭司は、それを主に受け入れられるよう御前に差し出す。祭司は安息日の翌日にそれを差し出さねばならない。
レ ビ 記	23:15 あなたたちはこの安息日の翌日、すなわち、初穂を携え奉納物とする日から数え始め、満七週間を経る。
レ ビ 記	23:24 イスラエルの人々に告げなさい。第七の月の一日は安息の日として守り、角笛を吹き鳴らして記念し、聖なる集会の日としなさい。
レ ビ 記	23:32 この日はあなたたちの最も厳かな安息日であり、あなたたちは苦行をせねばならない。この月の九日の夕暮れから翌日の夕暮れまでを安息日として安息しなさい。
レ ビ 記	23:38 このほかに主の安息日、主にささげるさまざまな献げ物、満願の献げ物、随意の献げ物がある。
レ ビ 記	23:39 なお第七の月の十五日、あなたたちが農作物を収穫するときは、七日の間主

		の祭りを祝いなさい。初日にも八日目にも安息の日を守りなさい。
レ	ビ	記
24:8	アロンはイスラエルの人々による供え物として、安息日ごとに主の御前に絶えることなく供える。これは永遠の契約である。	
レ	ビ	記
25:2	イスラエルの人々に告げてこう言いなさい。あなたがたがわたしの与える土地に入ったならば、主のための安息をその土地にも与えなさい。	
レ	ビ	記
25:4	七年目には全き安息を土地に与えねばならない。これは主のための安息である。畑に種を蒔いてはならない。ぶどう畑の手入れをしてはならない。	
レ	ビ	記
25:5	休憩中の畑に生じた穀物を収穫したり、手入れせずにおいたぶどう畑の実を集めてはならない。土地に全き安息を与えねばならない。	
レ	ビ	記
25:6	安息の年に畑に生じたものはあなたたちの食物となる。あなたをはじめ、あなたの男女の奴隷、雇い人やあなたのもとに宿っている滞在者、	
レ	ビ	記
25:8	あなたは安息の年を七回、すなわち七年を七度数えなさい。七を七倍した年は四十九年である。	
レ	ビ	記
26:2	あなたがたはわたしの安息の日を守り、わたしの聖所を敬いなさい。わたしは主である。	
レ	ビ	記
26:34	国が打ち捨てられ、あなたがたが敵の国にいる間、土地は安息し、その安息を楽しむ。	
レ	ビ	記
26:35	土地は、打ち捨てられている間、あなたがたがかつて住んでいたところには得られなかった安息を得る。	
レ	ビ	記
26:43	彼らが後にした土地は、打ち捨てられている間、安息を楽しむ。彼らはわたしの法を捨て、わたしの掟を退けたから、罪の罰を心から受け入れねばならない。	
民	数	記
15:32	イスラエルの人々が荒れ野にいたときのこと、ある男が安息日に薪を拾い集めているところを見つけれられた。	
民	数	記
28:9	安息日には、無傷の一歳の羊二匹をささげ、上等の小麦粉十分の二エファにオリーブ油を混ぜて作った穀物の献げ物とぶどう酒の献げ物を添える。	
民	数	記
28:10	安息日ごとにささげるべきこの焼き尽くす献げ物は、日ごとの焼き尽くす献げ物とぶどう酒の献げ物に加えるべきものである。	
申	命	記
5:12	安息日を守ってこれを聖別せよ。あなたの神、主が命じられたとおりに。	
申	命	記
5:14	七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、牛、ろばなどすべての家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。そうすれば、あなたの男女の奴隷もあなたと同じように休むことができる。	
申	命	記
5:15	あなたはかつてエジプトの国で奴隷であったが、あなたの神、主が力ある御手と御腕を伸ばしてあなたを導き出されたことを思い起こさねばならない。そのために、あなたの神、主は安息日を守るよう命じられたのである。	
列	王	記 下
4:23	夫は、「どうして、今日その人のもとに行くのか。新月でも安息日でもないのに」と言ったが、「行って参ります」と彼女は言い、	
列	王	記 下
11:5	こう命じた。「あなたがたがなすべきことはこれである。あなたがたのうち、安息日が出番に当たる者の三分の一は王宮の警備に就き、	
列	王	記 下
11:7	安息日が出番に当たるほかの二組は主の神殿で王のそばにいて警備に当たれ。	
列	王	記 下
11:9	百人隊の長たちは、すべて祭司ヨヤダが命じたとおり行い、おのおの安息日が出番に当たる部下と非番に当たる部下を引き連れ、祭司ヨヤダのもとに来了。	
列	王	記 下
16:18	彼はまたアッシリアの王のために、神殿の中に建てられている安息日用の廊と外側にある王の入り口を主の神殿から取り除いた。	
歴	代	誌 上
9:32	彼らの兄弟、ケハト一族の幾人かは、供え物のパンを安息日ごとに準備する責任を負った。	
歴	代	誌 上
23:31	また安息日、新月祭、および祝祭日には、定められた数を守って常に主の御前にささげる、主への焼き尽くす献げ物すべてについても責任を負った。	
歴	代	誌 下
2:3	わたしはわが神なる主の御名のために神殿を建て、これを主のために聖別して、その御前に香草の香をたき、絶えずパンを供え、朝に夕に、安息日と新月祭、我らの神なる主の祝祭日に、焼き尽くす献げ物をささげ、この事がイスラエルにおいていつまでも守られるようにしようとしています。	
歴	代	誌 下
6:41	神なる主よ、立ち上がって、あなたの安息所にお入りください。あなた御自身も御力を示す神の箱も。神なる主よ、あなたに仕える祭司らは救いを衣としてまとい、あなたの慈しみに生きる人々は幸福に浸って喜び祝うでしょう。	
歴	代	誌 下
8:13	安息日、新月祭、および、年に三度の祝祭日、除酵祭、七週祭、仮庵祭に関してモーセが命じたように、日ごとの定めに従って献げ物をささげた。	
歴	代	誌 下
23:4	あなたがたがなすべきことはこれである。あなたがたのうち、祭司もレビ人も、安息日が出番に当たる者の三分の一は門衛となり、	

歴代誌下	23:8 レビ人とすべてのユダの人々は、すべて祭司ヨヤダが命じたとおり行き、おのおの安息日が出番に当たる部下と非番に当たる部下を連れて来た。祭司ヨヤダが組分けを解かなかったからである。
歴代誌下	31:3 王はまた焼き尽くす献げ物のために自分の財産から王の分を出し、主の律法に記されているとおり、朝夕の焼き尽くす献げ物、安息日、新月祭、およびその他の祝祭日の焼き尽くす献げ物をささげさせた。
歴代誌下	36:21 こうして主がエレミヤの口を通して告げられた言葉が実現し、この地はついに安息を取り戻した。その荒廃の全期間を通じて地は安息を得、七十年の年月が満ちた。
ネヘミヤ記	9:14 あなたの聖なる安息日を布告し/僕モーセによって/戒めと掟と律法を受けられた。
ネヘミヤ記	10:32 わたしたちは、この地の民が安息日に商品をはじめ、いかなる種類の穀物を持って来て売ろうとしても、安息日と他の聖なる日には買わない。わたしたちは、七年ごとに耕作を休み、あらゆる負債を免除する。
ネヘミヤ記	10:34 それは供え物のパンのため、日ごとの穀物の献げ物のため、日ごとの焼き尽くす献げ物のため、安息日、新月祭、祝祭日のため、奉納物のため、イスラエルの罪を贖う贖罪の献げ物のため、すなわち神殿におけるすべての務めのためである。
ネヘミヤ記	13:15 またそのころ、ユダで、人々が安息日に桶の中でぶどうを踏み、穀物の束をろばに負わせて運んでいるのを、わたしは見た。また、ぶどう酒、ぶどうの実、いちじく、その他あらゆる種類の荷物も同じようにして、安息日にエルサレムに運び入れていた。そこで、彼らが食品を売っているその日に、わたしは彼らを戒めた。
ネヘミヤ記	13:16 ティルス人もそこに住み着き、魚をはじめあらゆる種類の商品を持ち込み、安息日に、しかもエルサレムで、ユダの人々に売っていた。
ネヘミヤ記	13:17 わたしはユダの貴族を責め、こう言った。「なんという悪事を働いているのか。安息日を汚しているではないか。」
ネヘミヤ記	13:18 あなたたちの先祖がそのようにしたからこそ、神はわたしたちとこの都の上に、あれほどの不幸をもたらされたのではなかったか。あなたたちは安息日を汚すことによって、またしてもイスラエルに対する神の怒りを招こうとしている。」
ネヘミヤ記	13:19 そこで、安息日の始まる前に、エルサレムの城門の辺りが暗くなってくると、わたしはその扉を閉じるように命じ、安息日が過ぎるまでそれを開けないように言いつけた。そしてわたしの部下をその門の前に立たせ、安息日には荷物が決して運び込まれないようにした。
ネヘミヤ記	13:21 わたしは彼らを戒めて、「なぜ城壁の前で夜を過ごすのか。繰り返すならば、お前たちを処罰する」と言った。そのとき以来、彼らは安息日には来なくなった。
ネヘミヤ記	13:22 またわたしはレビ人に、身を清めて門を守り、安息日を聖とするように命じた。わたしの神よ、このことについてもわたしを心に留め、あなたの大いなる慈しみによって、わたしを憐れんでください。
詩編	92:1 【賛歌。歌。安息日に。】
イザヤ書	1:13 むなしい献げ物を再び持って来るな。香の煙はわたしの忌み嫌うもの。新月祭、安息日、祝祭など/災いを伴う集いにわたしは耐ええない。
イザヤ書	28:12 主が彼らに言っておかれたことはこうだ。「これこそが安息である。疲れた者に安息を与えよ。これこそ憩いの場だ」と。しかし、彼らは聞こうとはしなかった。
イザヤ書	56:2 いかに幸いなことか、このように行う人/それを固く守る人の子は。安息日を守り、それを汚すことのない人/悪事に手をつけないように自戒する人は。
イザヤ書	56:4 なぜなら、主はこう言われる/宦官が、わたしの安息日を常に守り/わたしの望むことを選び/わたしの契約を固く守るなら
イザヤ書	56:6 また、主のもとに集って来た異邦人が/主に仕え、主の名を愛し、その僕となり/安息日を守り、それを汚すことなく/わたしの契約を固く守るなら
イザヤ書	58:13 安息日に歩き回ることをやめ/わたしの聖なる日にしたい事をするのをやめ/安息日を喜びの日と呼び/ 主の聖日を尊ぶべき日と呼び/これを尊び、旅をするのをやめ/したいことをし続けず、取り引きを慎むなら
イザヤ書	66:1 主はこう言われる。天はわたしの王座、地はわが足台。あなたたちはどこに/わたしのために神殿を建てうるか。何がわたしの安息の場となりうるか。
イザヤ書	66:23 新月ごと、安息日ごとに/すべての肉なる者はわたしの前に来てひれ伏すと/主は言われる。
エレミヤ書	17:21 主はこう言われる。あなたたちは、慎んで、安息日に荷を運ばないようにしなさい。エルサレムのどの門からも持ち込んではならない。
エレミヤ書	17:22 また安息日に、荷をあなたたちの家から持ち出してはならない。どのような

	仕事もしてはならない。安息日を聖別しなさい。
エ レ ミ ヤ 書	17:24 主は言われる。もし、あなたたちがわたしに聞き従い、安息日にこの都の門から荷を持ち込まず、安息日を聖別し、その日には何の仕事もしないならば、
エ レ ミ ヤ 書	17:27 もし、あなたたちがわたしに聞き従わず、安息日を聖別せず、安息日に荷を運んで、エルサレムの門に入るならば、わたしはエルサレムの門に火を放つ。その火はエルサレムの城郭を焼き尽くし、消えることはないであろう。」
哀 歌	2:6 シオンの祭りを滅ぼし/仮庵をも、園をも荒廃させられた。安息日をも、祭りをシオンに忘れさせ/王をも、祭司をも/激しい怒りをもって退けられた。
エゼキエル書	20:12 また、わたしは、彼らにわたしの安息日を与えた。これは、わたしと彼らとの間のしるしとなり、わたしが彼らを聖別する主であることを、彼らが知るためであった。
エゼキエル書	20:13 しかし、イスラエルの家は荒れ野でわたしに背き、人がそれを行えば生きることができるわたしの掟に歩まず、わたしの裁きを退け、更に、わたしの安息日を甚だしく汚した。それゆえ、わたしは荒れ野で、憤りを彼らの上に注ぎ、彼らを滅ぼし尽くそうとした。
エゼキエル書	20:16 それは、彼らがわたしの裁きを退け、わたしの掟に従って歩まず、わたしの安息日を汚したからだ。彼らの心は、自分たちの偶像にひかれていたのである。
エゼキエル書	20:20 わたしの安息日を聖別して、わたしとお前たちとの間のしるしとし、わたしがお前たちの神、主であることを知れ』と。
エゼキエル書	20:21 しかし、子供たちもわたしに背き、人がそれを行えば生きることができるわたしの掟に歩まず、わたしの裁きを守り行わず、わたしの安息日を汚した。それゆえ、わたしは荒れ野で彼らの上に憤りを注ぎ、怒りを浴びせる、と言った。
エゼキエル書	20:24 なぜなら、彼らがわたしの裁きを行わず、わたしの掟を退け、わたしの安息日を汚し、彼らの父祖の偶像に目をひかれていたからである。
エゼキエル書	22:8 お前はわたしの聖なるものをさげすみ、わたしの安息日を汚した。
エゼキエル書	22:26 祭司たちはわたしの律法を犯し、わたしの聖なるものを汚した。彼らは聖と俗とを区別せず、/浄と汚れの区別を教えず、わたしの安息日に目を覆った。こうして、わたしは彼らの間で汚されている。
エゼキエル書	23:38 更に、彼女たちはわたしに対して次のことを行った。すなわち、その日にわたしの聖所を汚し、わたしの安息日を汚した。
エゼキエル書	44:24 争いのあるときは、彼らが裁く者として臨み、わたしの裁きによって裁かねばならない。彼らは、わたしが定めたすべての祝祭日に、わたしの律法と掟を守らねばならない。また、わたしの安息日を聖別しなければならない。
エゼキエル書	45:17 そして君主は、焼き尽くす献げ物、穀物の献げ物、ぶどう酒の献げ物を、巡礼の祭り、新月の祭り、安息日、およびイスラエル家に定められたすべての祝日にささげねばならない。君主は、イスラエル家の贖いのために、贖罪の献げ物、穀物の献げ物、焼き尽くす献げ物、和解の献げ物をささげねばならない。」
エゼキエル書	46:1 主なる神はこう言われる。「内庭の東向きの門は、仕事をする六日の間、閉じておかねばならない。安息日には門を開く。また、新月の日にも門を開かねばならない。
エゼキエル書	46:3 国の民は、安息日と新月に、門の入り口の所で主に向かって礼拝しなければならない。
エゼキエル書	46:4 君主が、安息日に主にささげる焼き尽くす献げ物は、無傷の小羊六匹と無傷の雄羊一匹である。
エゼキエル書	46:12 また、君主が、随意の献げ物をささげるとき、それが焼き尽くす献げ物であれ、和解の献げ物であれ、随意に主にささげようとするときは、彼のために、東に面した門を開かねばならない。そして、彼は安息日に行うように焼き尽くす献げ物、または和解の献げ物をささげることができる。彼はささげ終わると出て行く。彼が出て行った後、門は閉じられる。
ホ セ ア 書	2:13 わたしは彼女の楽しみをすべて絶ち/祭り、新月祭、安息日などの祝いを/すべてやめさせる。
ア モ ス 書	8:5 お前たちは言う。「新月祭はいつ終わるのか、穀物を売りたいものだ。安息日はいつ終わるのか、麦を売り尽くしたいものだ。エファ升は小さくし、分銅は重くし、偽りの天秤を使ってごまかそう。
マタイによる福音書	12:1 そのころ、ある安息日にイエスは麦畑を通られた。弟子たちは空腹になったので、麦の穂を摘んで食べ始めた。
マタイによる福音書	12:2 ファリサイ派の人々がこれを見て、イエスに、「御覧なさい。あなたの弟子たちは、安息日にはしてはならないことをしている」と言った。
マタイによる	12:5 安息日に神殿にいる祭司は、安息日の掟を破っても罪にならない、と律法にあ

福音書	るのを読んだことがないのか。
マタイによる福音書	12:8 人の子は安息日の主なのである。」
マタイによる福音書	12:10 すると、片手の萎えた人がいた。人々はイエスを訴えようと思って、「安息日に病気を治すのは、律法で許されていますか」と尋ねた。
マタイによる福音書	12:11 そこで、イエスは言われた。「あなたたちのうち、だれか羊を一匹持っていて、それが安息日に穴に落ちた場合、手で引き上げてやらない者がいるだろうか。
マタイによる福音書	12:12 人間は羊よりもはるかに大切なものだ。だから、安息日に善いことをするのは許されている。」
マタイによる福音書	24:20 逃げるのが冬や安息日にならないように、祈りなさい。
マタイによる福音書	28:1 さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリアともう一人のマリアが、墓を見に行った。
マルコによる福音書	1:21 一行はカファルナウムに着いた。イエスは、安息日に会堂に入って教え始められた。
マルコによる福音書	2:23 ある安息日に、イエスが麦畑を通って行かれると、弟子たちは歩きながら麦の穂を摘み始めた。
マルコによる福音書	2:24 ファリサイ派の人々がイエスに、「御覧なさい。なぜ、彼らは安息日にはならないことをするのか」と言った。
マルコによる福音書	2:27 そして更に言われた。「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。
マルコによる福音書	2:28 だから、人の子は安息日の主でもある。」
マルコによる福音書	3:2 人々はイエスを訴えようと思って、安息日にこの人の病気をいやされるかどうか、注目していた。
マルコによる福音書	3:4 そして人々にこう言われた。「安息日に律法で許されているのは、善を行うことか、悪を行うことか。命を救うことか、殺すことか。」彼らは黙っていた。
マルコによる福音書	6:2 安息日になったので、イエスは会堂で教え始められた。多くの人々はそれを聞いて、驚いて言った。「この人は、このようなことをどこから得たのだろう。この人が授かった知恵と、その手で行われるこのような奇跡はいったい何か。
マルコによる福音書	15:42 既に夕方になった。その日は準備の日、すなわち安息日の前日であったので、
マルコによる福音書	16:1 安息日が終わると、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。
ルカによる福音書	4:16 イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。
ルカによる福音書	4:31 イエスはガリラヤの町カファルナウムに下って、安息日には人々を教えておられた。
ルカによる福音書	6:1 ある安息日に、イエスが麦畑を通って行かれると、弟子たちは麦の穂を摘み、手でもんで食べた。
ルカによる福音書	6:2 ファリサイ派のある人々が、「なぜ、安息日にはならないことを、あなたたちはするのか」と言った。
ルカによる福音書	6:5 そして、彼らに言われた。「人の子は安息日の主である。」
ルカによる福音書	6:6 また、ほかの安息日に、イエスは会堂に入って教えておられた。そこに一人の人がいて、その右手が萎えていた。
ルカによる福音書	6:7 律法学者たちやファリサイ派の人々は、訴える口実を見つけようとして、イエスが安息日に病気をいやされるかどうか、注目していた。
ルカによる福音書	6:9 そこで、イエスは言われた。「あなたたちに尋ねたい。安息日に律法で許されているのは、善を行うことか、悪を行うことか。命を救うことか、滅ぼすことか。」
ルカによる福音書	13:10 安息日に、イエスはある会堂で教えておられた。
ルカによる福音書	13:14 ところが会堂長は、イエスが安息日に病人をいやされたことに腹を立て、群衆に言った。「働くべき日は六日ある。その間に来て治してもらうがよい。安息日はいけない。」
ルカによる福音書	13:15 しかし、主は彼に答えて言われた。「偽善者たちよ、あなたたちはだれでも、安息日にも牛やろばを飼ひ葉桶から解いて、水を飲ませに引いて行くではないか。
ルカによる福音書	13:16 この女はアブラハムの娘なのに、十八年もの間サタンに縛られていたのだ。安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではなかったのか。」

ルカによる福音書	14:1 安息日のことだった。イエスは食事のためにファリサイ派のある議員の家にお入りになったが、人々はイエスの様子をうかがっていた。
ルカによる福音書	14:3 そこで、イエスは律法の専門家たちやファリサイ派の人々に言われた。「安息日に病気を治すことは律法で許されているか、いないか。」
ルカによる福音書	14:5 そして、言われた。「あなたたちの中に、自分の息子が牛が井戸に落ちたら、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者がいるだろうか。」
ルカによる福音書	23:54 その日は準備の日であり、安息日が始まろうとしていた。
ルカによる福音書	23:56 婦人たちは、安息日には掟に従って休んだ。
ヨハネによる福音書	5:9 すると、その人はすぐに良くなって、床を担いで歩きだした。その日は安息日であった。
ヨハネによる福音書	5:10 そこで、ユダヤ人たちは病気をいやしていただいた人に言った。「今日は安息日だ。だから床を担ぐことは、律法で許されていない。」
ヨハネによる福音書	5:16 そのため、ユダヤ人たちはイエスを迫害し始めた。イエスが、安息日にこのようなことをしておられたからである。
ヨハネによる福音書	5:18 このために、ユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとねらうようになった。イエスが安息日を破るだけでなく、神を御自分の父と呼んで、御自身を神と等しい者とされたからである。
ヨハネによる福音書	7:22 しかし、モーセはあなたたちに割礼を命じた。——もともと、これはモーセからではなく、族長たちから始まったのだが——だから、あなたたちは安息日にも割礼を施している。
ヨハネによる福音書	7:23 モーセの律法を破らないようにと、人は安息日であっても割礼を受けるのに、わたしが安息日に全身をいやしたからといって腹を立てるのか。
ヨハネによる福音書	9:14 イエスが土をこねてその目を開けられたのは、安息日のことであった。
ヨハネによる福音書	9:16 ファリサイ派の人々の中には、「その人は、安息日を守らないから、神のもとから来た者ではない」と言う者もいれば、「どうして罪のある人間が、こんなしるしを行うことができるだろうか」と言う者もいた。こうして、彼らの間で意見が分かれた。
ヨハネによる福音書	19:31 その日は準備の日で、翌日は特別の安息日であったので、ユダヤ人たちは、安息日に遺体を十字架の上に残しておかないために、足を折って取り降ろすように、ピラトに願い出た。
使徒言行録	1:12 使徒たちは、「オリーブ畑」と呼ばれる山からエルサレムに戻って来た。この山はエルサレムに近く、安息日にも歩くことが許される距離の所にある。
使徒言行録	13:14 パウロとバルナバはペルゲから進んで、ピシディア州のアンティオキアに到着した。そして、安息日に会堂に入って席に着いた。
使徒言行録	13:27 エルサレムに住む人々やその指導者たちは、イエスを認めず、また、安息日ごとに読まれる預言者の言葉を理解せず、イエスを罪に定めることによって、その言葉を実現させたのです。
使徒言行録	13:42 パウロとバルナバが会堂を出るとき、人々は次の安息日にも同じことを話してくれるように頼んだ。
使徒言行録	13:44 次の安息日になると、ほとんど町中の人々が主の言葉を聞こうとして集まって来た。
使徒言行録	15:21 モーセの律法は、昔からどの町にも告げ知らせる人がいて、安息日ごとに会堂で読まれているからです。」
使徒言行録	16:13 安息日に町の門を出て、祈りの場所があると思われる川岸に行った。そして、わたしたちもそこに座って、集まっていた婦人たちに話をした。
使徒言行録	17:2 パウロはいつものように、ユダヤ人の集まっているところへ入って行き、三回の安息日にわたって聖書を引用して論じ合い、
使徒言行録	18:4 パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人やギリシア人の説得に努めていた。
コロサイの信徒への手紙	2:16 だから、あなたがたは食べ物や飲み物のこと、また、祭りや新月や安息日のことでだれにも批評されてはなりません。
ヘブライ人への手紙	3:11 そのため、わたしは怒って誓った。『彼らを決してわたしの安息に/あずからせはしない』と。」
ヘブライ人への手紙	3:18 いったいだれに対して、御自分の安息にあずからせはしないと、誓われたのか。従わなかった者に対してではなかったか。
ヘブライ人	3:19 このようにして、彼らが安息にあずかることができなかったのは、不信仰のせ

へ の 手 紙	いであつたことがわたしたちに分かるのです。
へ ブ ラ イ 人 へ の 手 紙	4:1 だから、神の安息にあずかる約束がまだ続いているのに、取り残されてしまったと思われる者があなたがたのうちから出ないように、気をつけましょう。
へ ブ ラ イ 人 へ の 手 紙	4:3 信じたわたしたちは、この安息にあずかることができるのです。「わたしは怒って誓ったように、/『彼らを決してわたしの安息に/あずからせはしない』」と言われたとおりです。もっとも、神の業は天地創造の時以来、既に出来上がっていたのです。
へ ブ ラ イ 人 へ の 手 紙	4:5 そして、この個所でも改めて、「彼らを決してわたしの安息にあずからせはしない」と言われています。
へ ブ ラ イ 人 へ の 手 紙	4:6 そこで、この安息にあずかるはずの人々がまだ残っていることになり、また、先に福音を告げ知らされた人々が、不従順のためにあずからなかったのですから、
へ ブ ラ イ 人 へ の 手 紙	4:8 もしヨシュアが彼らに安息を与えたとするのなら、神は後になって他の日について語られることはなかったでしょう。
へ ブ ラ イ 人 へ の 手 紙	4:9 それで、安息日の休みが神の民に残されているのです。
へ ブ ラ イ 人 へ の 手 紙	4:10 なぜなら、神の安息にあずかった者は、神が御業を終えて休まれたように、自分の業を終えて休んだからです。
へ ブ ラ イ 人 へ の 手 紙	4:11 だから、わたしたちはこの安息にあずかるように努力しようではありませんか。さもないと、同じ不従順の例に倣って墮落する者が出るかもしれません。

※聖書（新共同訳）には、「安息」が163聖句に185か所に登場する。

上記の聖句から、神（イエス・キリスト）が示される**安息日は、単なる「労働の禁止日」だけではなく、神との関係の中で人が本来の姿に立ち帰るための、祝福と回復の時である**ことが分かります。

安息日は創世記において、天地創造の完成とともに定められました。神は第七日に御業を終え、これを祝福し、聖別されました（創2章）。これは神が疲労されたから、安息されたのではなく、人が神の創造を覚え、神に信頼して憩うためのリズムを安息日として与えられたのです。

➡**安息日は被造世界の秩序そのものに組み込まれた、神の恵みの制度です。**

出エジプト以後、安息日は契約のしるしとして律法に明確に位置づけられました（出20章、31章）。そこでは労働の禁止以上に、子、奴隷、寄留者、家畜に至るまで休ませることが命じられています。申命記はその理由を、イスラエルが奴隷状態から解放された歴史に結び付け、安息日を「解放と平等を記憶する日」として示しています（申5章）。

➡**安息日は支配や効率を絶対化する生き方に歯止めをかけ、人間の尊厳を守る神の配慮です。**

しかし、歴史の中で、安息日は次第に形式（形骸）化し、守ること自体が目的となっていきました。預言者たちは、空虚な儀式や不正と結びついた安息日を厳しく退け、安息日は、主を喜びとし、正義と憐れみに生きる日として守るよう訴えました（イザ1章、58章）。

➡**安息日に神が求められるのは、外面的な安息日の遵守ではなく、神の御心に叶う生き方です。**

イエス・キリストは、この預言者的伝統の中で安息日の本質を明らかにされました。イエスは安息日にも会堂で教え、病人を癒やし、「安息日は人のために定められた」と宣言されました（マルコ2章）。こうして、イエスご自身が「安息日の主」であり、律法を精神を体現されました。

➡**命を救い、善を行うことは、安息日を破る行為ではなく、むしろ安息日の完成です。**

さらに新約聖書、とりわけヘブライ人への手紙は、安息日を終末的・霊的な次元へと導きます。人は自らの業を手放し、救いを神に委ねるとき、神の安息に入ります。

➡**真の安息とは、特定の日の遵守にとどまらず、キリストを信じる信仰によって神の安息にあずかることです**（ヘブ4章）。

安息日とは、神を信頼して立ち止まり、礼拝と交わりの中で命を回復し、他者への愛と憐れみに生きるための日です。それは過去の創造と救済を記念し、同時にキリストにおいて与えられる永遠の安息を先取りする、神の恵みに満ちた時なのです。

①動機が利己的利益のみではない、②神への信頼と祈りをもって臨む、③安息日を軽んじたり、娯楽化していない、④前後の時間で礼拝・黙想の心を保つ。

安息日違反かどうかは、「土曜日に何をしたか」ではなく、「その行為が命・愛・信頼に仕えているか」で判断される。例えば、土曜日に予定された医師国家試験の受験は、状況・動機・姿勢次第で、安息日の精神と両立しうる行為です。また、医療・看護・救急に係る資格取得のための必須試験は「不可欠な奉仕・責務」として一律に罪とはされず、多くの牧師・倫理委員会等は、個人の良心に基づく判断を尊重している。

エレン・G.ホワイトも「安息日は命を救うためにある」と繰り返しています。

→安息日は、①仕事を休み、休息のためだけにあるのではなく、②善を積極的に行う日であり、③人を生かすためにある。

イエスは言っています。安息日は「善を控える日」ではなく、「善を積極的に行う日」、律法は人を縛るためにあるのではなく、人を生かすためにある。これはマルコ 2:27 の「安息日は人のために定められた」と完全に一致しています(→安息日に善を行うことは例外ではなく、むしろ本質である)。

→マタイ 12:11~12 そこで、イエスは言われた。「あなたたちのうち、だれか羊を一匹持っていて、それが安息日に穴に落ちた場合、手で引き上げてやらない者がいるだろうか。人間は羊よりもはるかに大切なものだ。だから、安息日に善いことをするのは許されている。」

→マルコ 3:4ab そして(イエスは)人々にこう言われた。「安息日に律法で許されているのは、善を行うことか、悪を行うことか。命を救うことか、殺すことか」(→安息日に「何もしない」という中立は存在しない)。